

ア行

ア		
若柴言葉	アルベキスガタ	解説・用例・その他
アエツポ, アエ		実の入らないカラの稲穂, よく実らない米
アオ	アオムキ	仰向け, 背泳ぎのことも言う
アガツポオログ		赤い色のやせた関東ローム層の土地
アガムル	アカルム	赤くなって実ること
アガンベエ	アカンベエ	嫌だという時
アゲル, アマス		食べたものを吐く
アゴム		跨ぐ
アサザ		朝飯前にする仕事
アシツピラ	アシノヒラ	足の裏「アシツピラヒンヌギシタ」
アシコ	アシアト	足跡
アスコ	アソコ	「アスコノミセノメエニアル」
アズキマメ	アツキ	小豆「アズキマメノタネエマエダガ」
アツケラカン		呆然と気が抜けた様
アツタラモン	モツタイナイ	惜しい「ソレ, アツタラモンダナ」
アツパツツパ		慌てる様, アツパツツパとも
アデス(ズ)ツポ		いいかげん
アベコベ		反対「ソレエアベコベダ」
アマツロシイ		甘みが強い
アリヤコリヤ		反対, 互い違い「アリヤコリヤニシロ」
アングルゲエル	アオムキニヒックリカエル	「カオスツテヤツカラアングルゲエツテロ」
アニコロモチ		餡をまぶした餅「アニコロモチンマイナ」
アンニ	アニ	兄「アンニ, アンベワリノガ」
アンベワリ	アンバイワルイ	病気である, アンベは塩梅
アンメエ	アルマイ	無いだろう「コンナノアンメエ」
アンモ	アモ	餅のこと, 甘い餅の略
アガス	アカス	明かす, 秘密を明らかにするから, 知らせる, 訴えるや告げるまで発展

イ

…イに近い音もあるがエの部に集録する

ウ

若柴言葉	アルベキスガタ	解説・用例・その他
ウガサレル	ウカサレル	お茶をたく「オツチャニウガサツタ」 飲んで眠れない時
ウステレ	ウスデレ	ウスは少し, デレは馬鹿
ウスパカ	ウスバカ	「コノウスバカヤロウ」
ウツクレル	コワレル	壊れる, クウレルと訛るウツと接頭語が付いた
ウチコ	ウチコソウダイ	氏子総代を訛り誤って省略
ウッセエ	ウルサイ	
ウツチャツチャエ	ウツチャツテシマエ	捨ててしまえ
ウツチャチエ	〃	
ウツシイ	ウツウシイ	鬱陶しい
ウノ	ウヌ	お前, 汝
ウラツカワ	ウラガワ, ガはガ	裏側
ウラツペ, ウラ	ユズエ	梢, 先端, ウラでは訛ることが多いので“ツペ”を付けた
ウン	ハイ	肯定
ウウン	イイエ	否定
ウンオ	タクサン	たくさん「オラエニャウントアラア」
ウンノメル	ウズメル	埋める

エ

若柴言葉	アルベキスガタ	解説・用例・その他
------	---------	-----------

エエヨ	イイヨ	良いよ「堪忍な」→「エエヨ」, 「アリガトナ」→「エエヨ」
エガエゴド		エガエは大きい, たくさんに「豆えエガエゴド鼠に食わツタ」
エガツタ	ヨカッタ	良かった
エガッペ, エガヘ	ヨカロウ	“良く在る可(べ)し”からヨガッペに訛り, さらにヨガヘになった。可しがベエに訛った。
エグベ, エンベ		関東のベエベエ言葉。行くベエの訛り「早くエグベヨ」, 「野良サエンベ」
エゴク	ウゴク	動く
エゴム, エグム		絵を描く時に彩色をすること, 絵組という言葉がある。これは絵の構想という意のことで, これと混同したらしい。
エム	エム	笑む, 笑うと口が開く, 栗の毬が割れて実の熟れたことを知らせる, 毬の割れたのを笑うと見立てた昔の人は詩人であった。「栗い, エンダカラヒラエニエンベ」
エマス	エマス	前項の笑むの他動詞で, 牛や馬の飼料の麦などを少し皮が割れるほどに程度に茹でること。このことから軽く茹でることに使う
エラ	エライ	「豪い」が短くなった。たくさん, 多い
エンドウマメ	エンドウ	豌豆豆, 豆が二重になっている。このほかにも大豆豆, 小豆豆などがある。テッキョウバシもそうだ。鉄橋橋

オ

若柴言葉	アルベキスガタ	解説・用例・その他
オオキニ	タクサン	上方の言葉が入ったのではないだろうか。「オオキニアリガトウゴザンシタ」は若柴の言葉だが, 「どうもありがとうございました」の意。上方では「オオキニ」という。これを現在では「どうも」で済ませているのと同じようなもの
オガリモシマス	オカリモウシマス	お借り申します 借りの時の言葉
オガンジン	オカンジン	お勧進, 勧進とは神仏のために金品を貰い集めること。
オギリ, オギ	オキビ, オキ	熾火の訛り。薪などが燃えて炭火のようになったもの。
オグル	オゴル	奢る。無償提供の意もある。東国訛り
オシコゲナク	オシゲナク	惜しがらず
オゾエ		本来は‘鈍(オゾ)い’で, にぶいやのろまの意。どうしたことか反対の利口の表現に使われていた。
オダノモウシマス	オタノモウシマス	古い語法‘お頼申します’の訛り
オッカグ	オル	折り欠く
オッカゲル	オイカケル	追いかける, 折れるの2つの用法がある
オックレル	コワレル	壊れる
オツケ	ミソシル	味噌汁。また, 婦人言葉で麺類につける汁を御つけと言った。この御つけからオツユに変わったと考えるのは勇み足か。
オッコロバス	オシコロバス	押し転ばす
オツツアバク	サク	裂く。裂くをサバクと言ったのがもと
オッチャス	オシツブス	押しつぶす
オッチャブス	オシツブス	〃
オッチャツチャエ	ステデシマエ	ウッチャツチャエの東国訛り
オッチャル	ステル	捨てる。ウッチャルは東国訛り

オッチョル	タオル	手折る。手折るがチョオルになって接頭語がついた。
オツパズレ	ハズレ	いちばん端。「村はずれ」
オツピシャグ	ヒシグ	押しつけてつぶす
オツペガス	ハガス	へガスは剥がすの訛り
オツペス	オス	押す。ヘスは圧す, オは接頭語
オニガラ	カブトムシ	甲虫を鬼柄虫(オニガラムシ)というが, その略称。
オハヨゴザンス	オハヨウゴザイマス	
オビノハダカ		着物を着ても帯を締めない様
オヒヤラカス	ヒヤカス	ひやかす, 茶化す
オビヤギ	ウブヤアキ	産家(ウブヤ)明きの訛り
オマンマ	ママ	古くは飯をママといった。オは敬語
オメキッテ	オモイキッテ	思い切って
オヤガマシゴザンシタ	オヤマカシュウゴザイマシ	他家を辞す時の挨拶
オラア	オレハ	俺は, 複数の場合もある
オラエ	オレノイエ	俺の家
オラガ	オレノ, オレノイエノ	俺の物, 俺の家の物等, 所有, 所属をいう
オレ	オレ	俺, 自分のことをいう
オレゴド	オレノコトヲ	俺のことを
オンチョル	タオル	手折るに接頭語が付いた
オンツアン	オチサン	叔父(伯父)さん
オンニ	オレニ	俺に
オンモリ		充分に, たくさんの意。大盛(オオモリ)から転じたか。

